

南寧高等学校 2年 チョン・ソヨン

初日は無事に福岡空港に着いたあと、車で約2時間かけて大分へ移動した。日本には旅行で行ったことはあるが、いつも地下鉄に乗っていたので、車で移動するのは新鮮だった。高速道路に乗りガソリンスタンドに行くのはとても普通のことなのに、外国だから不思議な感じがした。ウェルカムパーティーでホストファミリーなどたくさんの方に会った。初めは緊張したが、スピーチもミスなく終えて、ホストファミリーの方がたくさん話かけてくれたので、段々雰囲気が良くなかった。ウェルカムパーティーが終わり、各自ホームステイする家に向かった。ホームステイをしたことがないのでワクワクもしたが、緊張の方が大きかった。でもとても良い家族に会えて、ホームステイ期間中は本当に楽しく緊張せずに過ごせたと思う。

2日目はホームステイ先のお母さんから紹介してもらった高校生の子に会って遊ぶことになった。私は前から日本の同い年の子と話をしてみたかったので、本当に良い機会だと思った。お互いの国について気になることを聞きながら楽しく時間を過ごした。

そして研修に行った時期にちょうど日本の成人式の日があったので、一味違う経験をした。ホームステイした家のお姉さんが成人式に行き、私も家族について成人式を少し見に行った。多くの人が着物を着て集まっていた。成人式を盛大にする文化が韓国とは違って不思議だった。夕食ではホームステイ先のおばあさんが作ってくれた「赤飯」を食べた。赤飯は成人式の日に食べる料理で、私の好きなものだったので美味しかった。

ホームステイが終わり、もう一度研修団のみんなと合流し、うみたまごという水族館へ行った。可愛いカワウソとオットセイを見て嬉しかった。水族館見学を終えて、湯布院へ向かった。湯布院は韓国人が本当にたくさん行く観光地のため、1度は行ってみたいと思っていたが、今回行くことができて良かった。湯布院はトトロの町と呼ばれるらしく、本当に小さくてかわいい町の感じがした。そして夕食には焼き肉を食べた。日本の焼き肉は初めて食べたが、とても美味しかった。また、玲奈お姉さんのおすすめで初めてジンジャーエールを飲み、とても美味しかったので飲食店に行くたびにジンジャーエールを頼んだ。

学校訪問する日は、朝早く起きて準備した。今回の研修中で一番期待していた日でもあり、とてもドキドキした。東明高校に行き、歓迎会に参加したあと、

調理実習室で学生と一緒にたこ焼きを作った。たこ焼きが本当に好きで、実際に作るのは初めてだったため、新鮮で楽しかった。その後中学校へ行き、スピーチを終えて、教室ではお互いに質問をし合った。生徒も先生もみんな良い雰囲気を作ってくれて、楽しい時間だった。最後は生徒がみんなで歌を歌ってくれて、とても上手で本当に驚いた。学校訪問で惜しかった点は、高校も中学校も滞在時間が短く、仲良くなったり、話をすることができなかつた点だ。そんな名残惜しさをあとにしてAPUへ向かった。APUを訪問する前は、正直少ししか学校について知らなかつたが、訪問した後は、説明を聞き見学もしながら、APUについて関心が増えた。また、はっきりしていなかつた自分の進路を考えてみることに、とても役に立つた。

済州高等学校 1年 チョン・イェウン

九州研修団として初めて「九州」という地域を訪問することになった。正直、初めは最優秀賞のような高い賞ではなく特別賞だったので悔しく、「一回でももっと練習していれば…」と思っていたため、嬉しさよりは悔しさが大きかった。とにかく私は「特別賞」ということに満足していなかつたのだと思う。しかしそんな思いは九州に行くとさっぱり消えた。実際にやってみるとみんな親切で、何より少ないメンバーだったため、一緒に行ったお姉さんたちと仲良くなれ、引率者の玲奈さんとも親しくできてとても良かったと思う。本当に「特別賞だからなのか、本当に特別だ！！」という言葉が出る程だった。

ウェルカムパーティーではスピーチ大会で披露したようなスピーチをしなければいけない中、とても緊張しながら話したが、みんな頷いてくれたり、面白いと笑ってくれる方もいて、後半に行くにつれて落ち着いて話すことができた。

ホームステイは一家庭につき一人ずつ行き、私はそれがとても良いと思った。私が行ったところは子供が多い家族で、妹や弟がない私からしたら少しの間でも兄弟ができた気がして良い経験になったと思った。そして日本文化をあまり体験したことのなかつた私に、成人式の着物を着させてくれたり、食べてみたかった日本の家庭料理を食べさせてくれたりした。ホストファミリーと一緒に服を買いに行ったり、プレゼントで私が食べたことのない日本のお菓子や切り餅をくれたりもした。さらに私が不便に思わないように色々と気を遣ってくれた部分も多く、そのおかげで楽しく過ごせたのではないかと思う。また、私がホストファミリーに韓国語を教えてあげた際は、かえって私も嬉しくなつた。最後は名残惜しさが残る別れだったが、いつかまた会える日が来るといいと思う。

ホームステイを終えた次は、研修団のお姉さんたちと一緒に中心となり、枠組みだけ縛られた半自由旅行のような日程が始まった。みんなで食べたい物を決めて食事をしたり、日程にはなかった温泉に行ったりもした。「もし時間を止めることができたら…」という言葉が本当だったら止めたいほど幸せな時間だった。このほかにも別府地獄巡りをしたり、水族館やカラオケにも行き、カフェにも行ってみんなでおしゃべりもした。そして引率者の玲奈さんは、私が買い物の時に買い忘れて、もう一度買いに行った時も快く一緒にしてくれ、私が最年少だからかよく話しかけてくれたりもして、とてもありがたかった。

韓国に戻ってきて「九州で一番記憶に残っていることは何?」と聞かれた時、私は簡単に答えることができなかつた。ウェルカムパーティーから始まり、ホームステイ、水族館、神社、キャナルシティ、焼き肉屋等々、一つ一つが記憶に残り、みんな良い思い出として残っているため、どうしてもどれか一つを選ぶのが容易ではなかつたからだ。そして今回の九州研修を通じて、自分の日本語の足りない部分も分かり、新しく日本文化や生活を知ったことは、まだ世間知らずな私に大きな発展ができるよう助けてくれた機会になつた。

もう一度この九州研修団に行けないことは、いまだに寂しさが残るほど、とても名残惜しいが、だからこそより記憶の中に深く残るのではないかと思う。

済州外国語高等学校 2年 ハン・ヘウォン

今回の旅行は色々な面で私にとって意味が深かつた。済州外国語高校の学生として専攻語である日本語で大会に出場し、もらった賞でもあったが、百人余りの団体と一緒に1年生の時の修学旅行や、大学訪問が本目的の教育庁主管の大学訪問とは違つて、私を含めた4人という少数メンバーと観光という目的の旅行だった。そのため今回の旅行では疲れも負担も義務もなかつた（もちろん「研修」という名前で学業外の色々なことを学ぶ経験をすることだが）。ひたすら新しいところに対する期待感と好奇心、そして一緒に旅行するメンバーとの楽しさだけだった。

東京や大阪、そして京都、名古屋まで。相対的に他の日本の地域より聞き慣れた場所とは違い、九州地方は私にとって全くなじみのない地域だった。知つている所といえば、阿蘇山と温泉程度がすべてだ。そして旅行を終えて済州へと戻る今、九州は私にとって一番美しい日本が込められた場所になつた。

ホームステイで日本の家庭の生活を体験することができます、中学校や高校で日本の学生たちと話を交わすことができた。また、APUという素敵な大学を知つたり、有名な観光地でそれぞれが持つ特色をのぞき見ることができた。

今回の旅行が、私の中で三本の指に入るほど大切な経験になったのは、良い縁と出会えたことが大きな理由の一つだ。3泊の間、お世話になったホームステイの家族と色々な所を回り、運転して各場所についての説明をしてくれたドライバーの方や、いつも私たちの意思を聞いて優先視しながら旅行を共にした玲奈さん。APUキャンパスツアーを準備してくれた関係者の方や留学生のお姉さんまで。感謝と申し訳なさをすべて伝えるには、時間がかかりすぎてしまうほど、大切にしたい人がたくさんできた。

特に玲奈さんにはとても感謝したい。旅行日程が終わり、空港で4人が各自玲奈さんに書いた手紙を渡すと、とても喜んでくれて、むしろ私たちの方が嬉しかった。

場所別に具体的な感想を書くにはA4用紙10枚では足りないほど、日程や活動すべてが有意義で楽しかった。このような機会をくれた大分県海外教育支援機構と在済州日本国総領事館の関係者の方たち、6泊7日の間、喧嘩をしないで無事に帰ってきたイェウン、ウンジ、ソヨン、そして日本で会ったすべての方たちに感謝の言葉を伝えたい。

済州外国語高等学校2年 ファン・ウンジ

私は、他のメンバーより一時間程車で行かなくてはならない、佐伯市でホームステイをしました。佐伯市は都市から遠く離れた静かなところでした。2日目はホストファミリーと一緒に大入島という島へ行って、前年に使用したお守りを燃やす「トンド祭り」というお祭りを見学しました。お守りを燃やす以外にも、小学校野球部の公演や厄除けのための儀式、餅まきなど面白いイベントもありました。本行事のお守りと一緒に高いトンド燃やしが終わると、住民たちは松を持って燃やし始め、ホストファミリーの子が「これはお姉さんの」と言って松をくれました。私は何も分からず立っていると、お母さんが松を全部燃やすと今年一年が良い年になると教えてくれました。私も松を燃やそうとしましたが、火がとても熱くて失敗しました…。3日目は大入島のトレッキングコースを歩いて神社へ行きました。そのあと家へ一回戻り、映画館へと向かいました。上映まで時間が余ったので、ショッピングをしたり、九州で活動している歌手の公演を見たりしました。日本語で映画を観てみると聞き取れない言葉が多く、「日本語の勉強を頑張って、今度映画を見る時は全部理解できるようにしよう」と決めました。映画を観たあとは家に戻り、たこ焼きパーティーをしました。バラエティを見ながら家族と話をしていると、ゲストではなく本当の家族のような感じがしました。ホームステイ最終日は、朝に集合だった

ので、私たちは少し早く家を出て佐伯市を観光しました。江戸時代の道を実際に歩きながら、短時間ですが余裕を感じて本当に良かったです。

メンバーと集まって、色々な場所を訪ねて観光しました。東明高校、向陽中学校を訪問して、スピーチ大会で発表したスピーチをし、韓国についての質問に答えました。東明高校では、大分の有名な場所や食べ物についてプレゼンテーションを聞き、一緒にたこ焼きを作って食べました。午後はＡＰＵを訪問しました。私は日本留学を準備中で、学校にも入試紹介をしに来ていた大学なので、より関心を持って大学について説明を聞きました。大学の先輩が、ＡＰＵの授業内容や特色活動について教えてくれ、一緒にキャンパスツアーをしながら、キャンパスについても細かく教えてくれました。学校の説明を受け、茶道部を訪ねて茶道体験をしました。日本の伝統的な方法で淹れたお茶を飲んだり、お茶を受け渡す時にする挨拶も学びました。学校訪問以外にも湯布院、うみたまご水族館、太宰府天満宮、キャナルシティなど、色々な所へ行きました。

他のメンバーとは遠く離れて、一人で違う場所にホームステイすることになり、少し悲しかったですが、3泊4日間家族と大切な思い出を作って、そのような感情はなくなりました。九州というと、よく福岡、別府、湯布院を思い浮かべますが、新しく佐伯市を知ることができました。今度九州に旅行に行ったり、留学をすることになったら、必ずまた佐伯市に行きたいと思いました。

今回の九州研修が、今までの日本旅行の中で一番特別だったと思います。まず、私たちを引率してくれたれなさんが本当に良かったです。一緒に温泉に行くほど楽しい雰囲気を作ってくれ、私たちを一人一人気遣ってくれました。本当のお姉さんのようにでした。次にＡＰＵ訪問を通して、私に新しい目標を与えてくれました。ＡＰＵをもう一つの目標として、より日本語の勉強を一生懸命しようと思うようになりました。今回の研修を通じて、九州の美しさについて知ることができ、ホストファミリーのおかげで佐伯市で良い思い出を作ることができました。周りの友達や後輩にも、九州研修についてたくさん話して、私の感じた楽しさを伝えたいです。